

# 横浜国際港都建設審議会

## 第3回 第2部会(グローバル化関連)

### ～第3回の審議の進め方～

第1回及び第2回の部会などで出された将来の横浜のあるべき姿やその実現に向けた課題、論点、方向性などを集約し、第2部会としての横浜の目指すべき都市像の方向性とその実現に向けた施策の方向について審議し、中間取りまとめを整理します。

なお、各部会の中間取りまとめに基づき、『起草委員会』が全体を調整し、「都市像」とその実現に向けた「施策の基本方向（骨子）」について中間案を作成します。

### 1 第2部会における論点と目指すべき方向の確認

これまでの部会の審議などで出されたご意見の要旨をまとめ、都市像を描いていく仮の枠組みを設定しました。

論点ごとの目指すべき方向や都市像を描く枠組みなどについてご確認いただきます。

～ 資料1『第2部会（グローバル化関連）における検討のアウトライン（案）』～

### 2 横浜の目指すべき「都市像」

仮に設定した5つの都市像の枠組みごとに、これまでに出されたご意見を踏まえ、都市像のイメージとその実現に向けた具体的なアイデアについて整理しました。

これらを素材として、第2部会としての横浜の目指すべき都市像の方向性と施策の方向について審議していただきます。

～ 資料2『目指すべき都市像の検討素材』～

(参考資料) 2005年 横浜市民意識調査(抜粋)

今後の進め方(参考)

### …第2回総会・第4回部会…

第2回総会及び第4回部会(10月5日同日開催)では、『起草委員会』から示される「都市像」等の中間案について審議します。

第5回部会(11月8日)では、総会での審議や市民等からの提案などを踏まえて、都市像に関する中間案の修正や施策の基本方向等について審議します。

その後、『起草委員会』が最終案を取りまとめ、第3回総会で答申案を議決していただきます。

平成17年9月8日

# 第2部会(グローバル化関連)における検討のアウトライン(案)

◎第1・2回部会で出された意見 ○個別に委員からいただいた意見 ・市民の意見(7/24横浜の未来を考えるシンポジウム)

枠組	論点	主な意見
	考え方 (長期ビジョンの構成等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎市民が主語のビジョンにするため、あるべき状態だけでなく、市民がどのように行動するべきかのメッセージが入っていたほうがいいのではないかと。</li> <li>◎長期ビジョンは、最終的には構想としてまとめることになるが、様々な細かい内容をベースに持った上で構想というものがないといけないのであって、プログラムやこうありたいという願いなどがベースにしっかりあるということが、構想を支えることになる。</li> <li>○各都市共通の普遍的な都市像をベースとしつつ、横浜ならではの都市像をより強調するような立体感のある構成にするとともに、普遍的な都市像についても、できるだけ横浜を具体的にイメージできる表現を盛り込むべきである。</li> </ul>
国際都市	外国人市民との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎地域や市民生活レベルの国際化や多文化交流が必要。</li> <li>◎ローカルがグローバル化していく、いわゆるグローバルを考えるべき。</li> <li>◎外国人市民のまちづくりへの参加が必要。</li> <li>○外国人が公務員や消防団員など地域的な集団に参加できるようになるといいのではないかと。</li> <li>○外国人市民や外資系企業については、人と人のつながりが重要である。外国人に優しい街であるという印象を持ってもらうことが必要。</li> <li>○外国人市民の暮らしやすい生活環境は新たに作るのではなく、もともとあるまちの雰囲気を活かしながら、外国人も日本人も暮らしやすい生活環境を整えるべきである。</li> </ul>
	外国人労働者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国人研究者や技術者の積極的受け入れによる企業の国際展開の推進が必要であり、学校や病院などの生活環境を整え、横浜は住みやすい、研究しやすいまちといわれることが必要。</li> <li>○外国人労働者の受け入れは国策であると思うが、特区的に場所や職種を限定してやってみるといったのも考えられるのではないかと。</li> <li>○外国人労働者の受け入れについては、様々な課題を想定し十分に検討する必要がある。</li> <li>○単に働きに来るだけではなく、日本や横浜のことを理解しようとする国際人を招く必要がある。</li> </ul>
	教育、人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎多文化共生を考える上で、教育の問題は避けて通れない。</li> <li>◎言葉だけではなくコミュニケーション能力を持ったグローバルな人材の育成が必要。</li> <li>○人間の中身が大事である。教育に熱心な街、横浜に住むと熱心に教育してくれるといわれるようになると思う。</li> <li>○外国人の教育環境を整える中で、日本人の教育を見直すきっかけにもなるのではないかと。</li> <li>◎グローバル都市となるために子どものころから英語を学ぶことが必要。英語しか使わないフォーリンビレッジをつくったらいけないのではないかと。</li> <li>◎国際化をしていく上で英語も必要だが、むしろ多言語を考えるべきである。子どもたちが、様々な言語をリズムや音楽のように体で感じるができる環境をつくっていくことが必要。</li> <li>◎多言語については、中国語、韓国語、ロシア語などまず隣の国の言葉から勉強する必要がある。</li> <li>○国や地域に誇りを持てる社会を築くことが必要であり、横浜の歴史や文化の教育が重要。</li> <li>・グローバル化によって船員が大きく減少しているが、能力のある外国人を活用するためにも、船員の60%以上を占めている部員を教育する、国際的な船員教育機関をつくったらいけないのではないかと。</li> </ul>
	国際貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎横浜らしい中小企業の技術力や市民の国際性、開放性を活かしながら、競争に勝つだけではなく、アジア地域の環境改善など、海外の都市、地域の人々に国際貢献していくことが必要。</li> <li>◎自分の国、郷土に対する考え方、横浜人としてどう横浜を考えていくかなどがあって、初めて国際化があるのではないかと。</li> <li>◎都市間競争が激化していく中で、協力し合う都市も必要であり、特区や規制緩和などを活用して、上海やバンクーバーなどと都市間FTAという形で、経済や教育などあらゆる部分でより深い結びつきをつくっていったらいけないのではないかと。</li> </ul>
	観光振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎日帰り客を取り込みつつ、泊まってみたくなるまちづくりが今後重要になる。</li> <li>◎横浜に来たら横浜の美味しい野菜が食べられる、また、ホテルなどでもバイキングで誰が作ったものかを表記するなど、農業を活かした観光も考えられるのではないかと。</li> <li>◎直売所をネットワーク化したり、様々なところにアンテナショップをつくることも検討すべき。</li> <li>◎外国人は昔の日本を見たいと考えている。古風な日本の景観・風情を残した都市づくりが必要。</li> <li>○観光客を集客しづらい時期に、定期的、継続的に市内を回遊するようなイベントを行うことが効果的ではないかと。</li> </ul>
	情報化	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ICT(インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー)を活かしたまちづくりが重要になる。</li> <li>◎ウェブサイトは都市の顔であり、横浜もITをもっと活用してマーケティングしていく必要がある。</li> <li>◎新しいことを受け入れる横浜の特徴を活かし、携帯電話が使用可能な地下鉄のビジネス車両など、固定観念に縛られない発想を取り入れるべきである。</li> </ul>
都市構造	文化芸術	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎単に産業の活性化や文化芸術ということではなく、文化や芸術をベースにしなが新しい産業を様々なに生み出すような「創造性」が必要である。</li> <li>◎どこの都市も同じような顔づくりを行っているなかで、横浜の文化や横浜ならではのものを残しながら、国際的な都市づくりをしていくことが重要。</li> <li>○リヨンのライトフェスティバルのように、街中がライトアップされ、ライトによってビルの壁面にアートを描くようなフェスティバルをやれば、文化芸術の都市として打ち出せるし、観光客を集めることができるのではないかと。フランス映画祭と一緒にやるとさらに効果的ではないかと。</li> </ul>
	ものづくり技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎横浜が昔から力を入れてきた「ものづくり」の産業が大事である。</li> <li>◎生産拠点を海外に移す意味が問われているなかで、技術力やマーケティングに力をいれて製造業を残すことにより、市民の雇用の創出にもつながる。</li> <li>◎技術の伝承はすぐにはできないので、今、横浜に残っている中小、零細企業の技術力が国際的な競争の中で生き残っていくためにバックアップしていくことが必要。</li> </ul>
	産業育成・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○経済の競争力は企業に任せ、行政は再チャレンジできる仕組みや安定した暮らしを支えることにより、結果としてグローバル都市になるのではないかと。</li> <li>・横浜は国際的産業を大事にしてきたので、それを伸ばせばいいのではないかと。</li> <li>・市民や市が出資して横浜に政策投資銀行的な銀行をつくり、地場企業の育成を図ることが必要。</li> <li>◎IT・バイオ・ナノなど、これから伸びる産業の集積が必要であり、そのために必要な都市構造を考えるべき。</li> <li>◎東京に近いこと、教育や所得水準が高いことなど、横浜の特徴を活かしていくことが必要。</li> <li>○横浜市内や周辺地域を含めた域内経済を形成し、地産地消の農業や商店街など顔の見える経済を活性化することにより、グローバル化していく中でも安心感のある生活ができるのではないかと。</li> </ul>
	空港・港湾	<ul style="list-style-type: none"> <li>○羽田空港の再国際化を図り、これを活用した横浜独自の産業展開を図るべき。</li> <li>○横浜と同じ港湾都市である上海、仁川(インチョン)などと連携してアジアのハブを担うといえないではないかと。</li> <li>○空港、港、道路、鉄道を一体的に考えた都市づくりが必要。</li> </ul>

都市像の方向性

真の国際化を目指すという観点から、国際都市における人と人とのつながりや国際人としての人材育成などに着目した将来像など

都市像の方向性

国際都市としての魅力や活力を高める観点から、横浜らしさ・個性に着目した将来像など

枠組	論点	主な意見	
都市構造	東京との関係	◎現状のままでは東京のベッドタウン化が進んでいく恐れがあるため、東京圏の中の横浜の特徴や個性を活かすべき。 ○都市構造は首都圏全体で見る必要があり、横浜発で首都圏全体の絵を描く必要があるのではないか。 ◎リヨンでは何か計画するときは周りの都市も協力するなど、周辺都市と連携したグレーターリオンを形成しており、横浜も近隣都市との連携体制をつくるべきではないか。	都市像の方向性 望ましい都市構造の観点から、暮らしやすさ、働きやすさ、企業活動しやすさに着目した将来像など
	職住近接	◎横浜に住んで働ければ女性や高齢者も働きやすい環境になる。 ○今後退職世代になる団塊の世代の人たちの活用が重要であり、マッチングの仕組みなどを考える必要があるのではないか。 ◎職住近接で、女性や高齢者だけでなく、ニートやフリーターも働きやすい都市構造にしていく必要がある。	
	都心や副都心の機能	○居住の場、就業の場、学び遊ぶ場などが身近にバランスよく存在するコンパクトな都市づくりが重要である。 ○業務核都市的な多心型都市構造ではなく、生活に密着した心をつくっていく必要がある。 ○生活の質を向上させるために都市空間の質を高めることが必要であり、都市の中に、バランスよく人々が集まって、自然にコミュニケーションできる空間をつくる必要がある。	
	交通ネットワーク	○高齢者が外出しやすく、女性が身近で働きやすい環境づくりなどのため、鉄道、バスなどの交通機関を市民の足として、より使いやすくすることが重要。	
	都市農業	◎野菜類の中には横浜市内では賄えないものがあると思うので、どのように食べられるまちづくりをしていくのか考える必要がある。 ◎少子高齢化で労働力が不足していく一方で、リタイア世代などで土に触れたいという人が多いので、市民を取り込んだ農業にしていく必要がある。 ◎農業が産業的に発展し、雇用を生み出すようになるといいと思う。 ○農家が農家として経営が成り立つようにする必要がある。	都市像の方向性 市内各地域の魅力を発揮する観点から、地域資源を活かしたまちづくりに着目した将来像など
	農地保全・活用	○都市と農業を分けて考えるのではなく、都市の中での新しい農業を考えられないだろうか。 ◎横浜に大きな農地があり、農業を展開しているということを市民に理解してもらうことが重要。 ◎市街化区域の農地は、緑といった環境面だけでなく、災害発生時の緩衝帯としても意味があり、多くの農地が防災協力農地となっていることも、都市農業を理解してもらうためのひとつの方策である。	
	住宅・住環境	◎将来、横浜市でも過疎と過密の問題が生じ、立地条件の悪いところは廃墟となる部分が出てくると考えられるので、今後の住宅政策のあり方を考える必要がある。	
景観形成	○良好な住宅地、斜面緑地、歴史的資産など、地域各々の特徴を活かした景観を住民の手で守り、つくっていくことが必要。 ・歴史的建築物など景観を活かした都市整備が必要。		
環境行動	身近な自然	○河川、海、緑地、農地など貴重な環境資源を活かしたまちづくりが必要。 ◎都市部で緑を残すためにはお金がかかるので、土地開発公社が持っている土地と交換するなど、知恵を絞る必要がある。 ○市内の大小様々な空地进行を、次に使用するまでの間、地域の住民が農地や花畑として活用できるような仕組みづくりをしたらどうか。	都市像の方向性 環境と経済の調和や持続性ある発展の観点から、市民一人ひとりの環境行動に着目した将来像など
	自然環境	◎希少種等、横浜に残されている豊かな自然環境の保全や再生が必要。 ◎公園や緑地を減らさないように道路整備をすすめる必要がある。 ◎横浜に残っている希少種は人が住んでいるすぐ近くの里山にあり、手を差し伸べないとなくなってしまうので、行政が守るという姿勢を打ち出すことが必要。 ○緑の七大拠点には是非でも守るという方向性を打ち出す必要がある。	
	省資源、循環型社会	○環境に配慮したライフスタイルや企業活動への転換のほか、インフラの整備、環境負荷を軽減する新たな技術開発の推進やリサイクルのさらなる推進など、循環型社会に向けた仕組みづくりが必要。 ・G30の実績を活かしながら、大都市型の環境対策のあるべき姿をビジョンに取り入れてほしい。 ◎私たちがつくるごみ自体を減らす、ライフスタイルを変えなくてはいけない。 ◎コンポストにしたいけども土がなくてできないので、コンポストからつながる都市農業とのサイクルといったシステムをつくるべきではないか。 ○市民が一律的な環境行動をするだけではなく、地域の特性に応じてどのような行動が必要かを自ら発案し、行動する必要がある。	
	地球温暖化対策	◎ヒートアイランドなど地球温暖化が進んでいく恐れがあるため、大きな緑の配置が必要。 ◎地球温暖化対策として、マンションなどの屋上緑化を進める必要がある。 ○平均気温を何度下げるといような、明確な目標を設定して地球温暖化に取り組むべき。	
	環境と経済の調和	○環境と経済がトレードオフの関係ではなく、環境に配慮するほど競争力や魅力が発揮できるような都市構造を考える必要がある。 ◎ホテルで歯ブラシやアメニティを使わなかった場合はその分を植林にまわすなど、サービスのグリーン化をすすめ、観光都市として、市民だけではなく、横浜を訪れる人にも協力してもらえるような仕組みづくりが必要。	

# 目指すべき都市像の検討素材

～第2部会(グローバル化関連)～

都市像の方向性	都市像のイメージ・キーワード	概要図	具体的アイデア<例示>
<p>(国際人・人材育成)</p> <p>真の国際化を目指すという観点から、国際都市における人と人とのつながりや国際人としての人材育成などに着目した将来像など</p>	<p>これまでも「横浜人＝本当の国際人」が暮らし、これからも国際人をつくり育てる都市</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グローバルな視点を持った人材の集積</li> <li>○グローバルに活動する人材の育成</li> <li>○オープンな、ボランティアな心(意識)の国際性</li> <li>○人のつながりから都市のつながりへの展開</li> <li>○国籍に関わらず暮らしやすい生活環境の整備</li> <li>○世界の人とのコミュニケーション能力の向上</li> <li>○国や地域に誇りを持てる社会を築くため、歴史や文化の理解のための教育推進</li> <li>○横浜の技術力や市民力を活かした国際貢献の推進</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国人の地域活動への参加</li> <li>○国際的な船員教育機関</li> <li>○都市間FTA</li> </ul>
<p>(横浜アピール)</p> <p>国際都市としての魅力や活力を高める観点から、横浜らしさ・個性に着目した将来像など</p>	<p>国際港都横浜の持つ独自の多彩な個性を、世界にアピール(発信)し、活性化する都市</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○世界標準化が進む中で、地域固有性の尊重</li> <li>○「横浜らしさ」や横浜の強みの明確化</li> <li>○東京にない個性、ミニ東京ではない独自性</li> <li>○世界に誇れる魅力・活力・創造力の発見と充実</li> <li>○歴史や異国情緒のある街並みと先進的な都市空間の活用</li> <li>○文化芸術活動を支える都市環境の整備</li> <li>○空港や港の良い立地条件を活かし、空港、港、道路、鉄道が一体的に機能する都市構造の整備</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○中小企業等のものづくり技術力をバックアップ</li> <li>○IT・バイオ・ナノなど成長産業の集積</li> <li>○農作物の直売所のネットワーク化やアンテナショップの展開</li> <li>○ライトフェスティバル</li> </ul>
<p>(暮らしやすい都市構造)</p> <p>望ましい都市構造の観点から、暮らしやすさ、働きやすさ、企業活動しやすさに着目した将来像など</p>	<p>職と住と楽が近接し、利便性と快適性のある暮らしやすい都市</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○職 → 女性や高齢者、ニートなども働きやすい</li> <li>○住 → ニーズに合った多様な住みよい住宅地</li> <li>○楽 → 可処分時間の増加＝遊び+学び+憩いなど多様な機会の提供</li> <li>○近接→移動しやすい公共交通機関を活かし、主要駅を中心としたコンパクトな土地利用、地域づくり</li> <li>○一方で、不便であっても、豊かな自然の中での暮らしを選択できる都市づくり</li> <li>○暮らしやすい住宅地だけではなく、働らきやすい就業地の環境づくり</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○居住の場、就業の場、学び遊ぶ場などを身近に配置</li> <li>○人が集まって、自然にコミュニケーションできる空間の設置</li> </ul>
<p>(地域まちづくり)</p> <p>市内各地域の魅力を発揮する観点から、地域資源を活かしたまちづくりに着目した将来像など</p>	<p>住環境や歴史的資源など多様な地域の特性を反映しながら、住民自らのまちづくりが活発に展開される都市</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の資源(歴史・文化・水と緑・景観など)、魅力の発見</li> <li>○住民主体の手作りの環境づくりやイベント</li> <li>○地域の課題に対応した市民参加のまちづくり</li> <li>○地域コミュニティによるエリアマネジメント、まちのルールづくり</li> <li>○それぞれの地域で魅力的な活動(仕事、文化、消費など)や暮らしができるまちづくり</li> <li>○18区役所を中心とした協働のまちづくり</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な住宅地や水・緑など豊かな自然環境、歴史的資源など、それぞれの地域の特徴を活かした景観を住民の手で守り、つくる。</li> </ul>
<p>(環境行動)</p> <p>環境と経済の調和や持続性ある発展の観点から、市民一人ひとりの環境行動に着目した将来像など</p>	<p>地域から地球に広がる環境問題に対し、市民自らが環境行動を考え推進する持続可能な都市</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○環境と経済のバランス</li> <li>○エコロジーとエコノミーの調和、環境共生の視点</li> <li>○サステナブル(持続可能)な都市づくり</li> <li>○G30、省エネルギー、クールビズなど環境に優しいライフスタイルへの転換</li> <li>○豊かな自然環境の保全・創造</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○屋上緑化</li> <li>○ホテルなどにおけるサービスのグリーン化</li> <li>○拠点的な緑地の保全</li> </ul>

# 2005年 横浜市民意識調査（抜粋）

## <市民意識調査の概要>

- ◇ 調査地域：横浜市全域
- ◇ 調査対象：市内に居住する15歳以上の方 3,500人（外国人含む）
- ◇ 抽出対象：住民基本台帳からの層化二段階無作為抽出、外国人登録原票からの無作為抽出
- ◇ 調査方法：調査員による個別訪問面接聴取法
- ◇ 調査時期：平成17年6月17日～7月18日
- ◇ 回収結果：2,594票 回収率74.1% （平成16年度回収率 61.7%）

## 【20年後の社会】

Q 20年後の社会について、あなたはどのように思われますか。

（単位：％）

	そう思う	どちらともいえない	そう思わない
今よりも税金や社会保障負担が高くなっている	87.0	8.7	4.3
一人暮らしの高齢者や子どものいない家庭が増えている	82.2	10.6	7.2
地球温暖化などの環境問題がいつそう深刻化している	80.0	13.6	6.3
未婚者が増加し、晩婚化がより進んでいる	75.9	17.5	6.6
情報化が進み、つねに世界とつながる社会になっている	70.4	20.7	8.8
失業・不況が慢性化している	52.8	37.0	10.3
個人能力や目標に応じた教育を選択できるようになっている	44.6	35.6	19.8
外国人も地域で一緒に暮らし、働く社会になっている	42.5	36.4	21.1
循環型社会が一層進んでいる	40.5	52.2	7.2
地域でも市民活動が活発になり、起業する人が出てくる	37.1	48.4	14.6
人口減少と高齢化によって	36.4	36.8	26.8
仕事と子育てが両立できる社会になっている	34.4	30.5	35.1
エネルギーが不足し、耐乏生活をしている	25.9	43.2	30.9
都市にオープンスペースが増え、緑が今より多くなっている	25.2	35.9	38.9
地域問題に市民同士が解決に向け行動するようになっている	23.4	43.2	33.5
横浜がアジアの経済・文化交流の中心的役割を担っている	23.0	51.2	25.8
食糧が不足し、食べるのに大変な時代になっている	20.3	39.9	39.8
余暇が増大し、皆が思い思いの楽しみを味わっている	20.1	33.8	46.0
災害や犯罪に強い安全で安心なまちになっている	12.8	41.8	45.6
経済が活性化し、暮らしが今以上に豊かになっている	10.1	36.4	53.5

### 【横浜のイメージ】

Q あなたは、横浜を最もよくあらわすイメージは何だと思われますか。（3つ選択）

	項目	%
1	海と港	85.8
2	異国情緒・国際都市	57.1
3	観光・レジャー	21.3
4	歴史・伝統	20.5
5	ファッション・ショッピング	16.9
6	緑と丘	12.6
7	住宅・ベッドタウン	12.6
8	産業・ビジネス	10.4
9	美しい街並み	8.5
10	開放性・進取の気性	7.3
11	スポーツ・文化芸術	6.0
12	雑然とした街並み	4.4
	無回答	0.3

Q 「横浜」について魅力を感じる点はどんなところですか。（3つ選択）

	項目	%	H9 %
1	海や港が身近にある	59.3	55.5
2	ショッピング施設が充実しており買い物が便利である	43.6	48.6
3	国際的な雰囲気がある	37.2	44.2
4	道路鉄道網が発達しており買い物が便利である	23.1	21.2
5	まとまった緑地などの自然が残っている	20.2	22.1
6	伝統が息づき、古い街並みや建物が残るなど街に落ち着きがある	14.6	13.0
7	文化・スポーツ・娯楽施設が充実している	11.6	10.4
8	情報が豊富で、新しい文化が生まれ、街が個性的である	10.7	12.3
9	経済的に活力があり、働く場に恵まれている	10.5	14.1
10	地域社会が開放的でサバサバしている	4.9	5.0
11	物価や地価が安定している	2.8	2.9
12	人情味が豊かで人と人の触れあいがある	2.8	6.0
13	風紀が良く犯罪が少ない	2.0	3.5
14	防災対策が充実しており、安心して暮らせる	1.3	2.6

特に魅力を感じる点はない

4.5

**【市民活動】**

Q あなたは現在、仕事や学業以外にどのような活動に参加していますか。(複数回答.)

平成17年	%	平成14年	%
自治会、町内会の活動	21.0	自治会、町内会の活動	18.0
資源回収やごみの分別、リサイクル活動	17.0	文化・芸術・スポーツの参加や振興	10.2
祭や盆踊り、運動会などのイベント	12.3	祭や盆踊り、運動会などのイベント	8.7
文化・芸術・スポーツの参加や振興	11.7	資源回収やごみの分別、リサイクル活動	8.6
子育てサークルやPTA活動	6.6	子供会、婦人会、老人クラブの活動	6.8
子供会、婦人会、老人クラブの活動	6.4	子育てサークルやPTA活動	6.2
身近な道路や公園などの清掃活動	5.5	身近な道路や公園などの清掃活動	5.7
高齢者や障害者への手助けや交流などの福祉活動	4.9	高齢者や障害者への手助けや交流などの福祉活動	3.1
その他の社会奉仕などボランティア活動	3.9	その他の社会奉仕などボランティア活動	3.1
交通安全や防災・防犯などの地域の安全活動	3.5	交通安全や防災・防犯などの地域の安全活動	2.5
在日外国人や海外との交流・支援などの活動	1.3	在日外国人や海外との交流・支援などの活動	1.5
身近な水辺や緑地（里山など）などの自然環境の保全	1.2	身近な水辺や緑地（里山など）などの自然環境の保全	1.2

特にない

52.3